

心不全の症状



日本心臓財団ホームページ:心不全を知って、うまく付き合おう
https://www.jhf.or.jp/topics/2019_007954から引用

が、この動きが低下するほど心不全の症状が起ります。

左心室の動きが悪くなり、体のすみずみまで十分な血が送れないと、身体はだるくなり、疲れやすくなり、血圧が低くなり、手足が冷たくなることもあります。腎臓でもくられる尿も減ります。全身に送れない分だけ、肺に血液が停滞(うっ血)します。肺に血液が滞ると、呼吸が滞ります。十分な酸素を取り込めません。吐き・階段

右心室の動きが悪く

や急ぎ足で、ハイハイと息が切れるようになり、次第に足地でも息が切れるようになります。せせせして、咳が出やすくなります。あおむけで寝ると苦しむことも多いです。心臓は一生懸命に頑張ることも多いです。これが皮膚に起こると、むくみです。胃腸の粘膜にもうっ血が起こり、食物の消化や吸収が悪くなり、腹がもたれ食欲も低下します。

なりと、全身から戻る血液が滞ります。下半身の静脈にうっ血が起ります。毛細血管にもうっ血が起り、そこから体素を以て上層を通る血液の水分が組織へとみ出します。これが皮膚に起こると、むくみです。胃腸の粘膜にもうっ血が起こり、食物の消化や吸収が悪くなり、腹がもたれ食欲も低下します。

量だけ体重が増えたり、だるさ、むくみや、息切れしてきやすくなる、足がむくみ、急に体素を以て上層へたなどの症状が出たら心不全かもしれません。年々のせいにして、かかりつけの医に相談しましょう。

※心不全は心不全にならないためには、

80 心不全の症状と気づくには？

これほど、心不全は、心臓が悪いために、よって起こるが、リズミクスが、一年のせいと思ひ込み、放置されて、り、だんだん悪くなる(1)までの四つの、い、とが少なくあり、リ生命を縮める病氣)ステージがあり、症状、ま、進行してから

人生100年時代の健康管理

桐生大学桐生学術実務院院長 山科 章



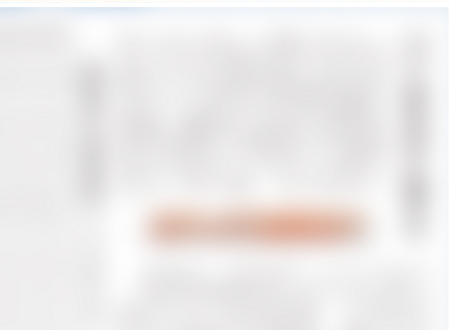
【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科歯科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

が出現するのは、デ、ジからと感明し、

では治療が難しくなるので、早く見つけることが大切です。今回は心不全の症状がどのように起るか説明しましょう。

心臓はポンプの働きをしています。心臓には四つの部屋があり、全身から戻ってくる血液を肺に送るの、右心室です。肺から酸素たっぷりとなり、戻ってくる血液を全身に血液を送るのが左心室です。右心室と左心室が収縮し、血液を繰り返すポンプとなって血液を循環させています。

保健・福祉



◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。